



「銭湯 × 大阪環状線」フリーぺーパーの制作



DATA

■ 主な連携先・メンバー

西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部アーバン未来づくりプロジェクト／株式会社JR西日本コミュニケーションズ／JR大阪環状線沿線の公衆浴場および近隣の店舗・施設／関西大学総合情報学部岡田朋之ゼミ 銭湯チーム

■ 活動地域

大阪府大阪市

■ 活動期間

2019年度～2020年度

■ 活動資金

JR西日本事業費および関西大学総合情報学部実験実習材料費(印刷・製本費)

活動の目的

- 1 大阪に根づく銭湯文化を守り、銭湯の魅力を広く周知する
- 2 JR大阪環状線沿線地域にある銭湯を観光資源と捉えることで、地域活性化をはかる

三 連携にいたる経緯

西九条駅、弁天町駅、大正駅、芦原橋駅を中心とした大阪環状線の西側地域の集客と活性化を図りたいというJR西日本側からの意向と、それらの地域に比較的多く残る歴史ある銭湯およびその周辺についてフリーぺーパーを用いて紹介したいという制作チームの企画が合致した。

三 活動内容

JR大阪環状線各駅から徒歩10分以内の銭湯について、制作チームのメンバーが実際に入浴した上で取材先を選定し、原則としてひとつの駅について銭湯を一箇所取りあげ、銭湯スタッフへの取材や写真撮影、周辺店舗の取材などをこない、A5判フルカラー全28ページの冊子を制作した。編集にあたり、基本情報として、所在地や連絡先、営業時間、定休日のほか、露天風呂やサウナの有無、利用料金、最寄り駅からの所要時間、ホームページやSNSアカウント、周辺マップを記載とともに、銭湯それぞれの持つ特長・おすすめなどをスタッフに直接取材し、また取材者自身が体感した雰囲気なども表現し、若者目線のコンセプトを重視して記事を制作した。完成した冊子は2020年3月～4月にかけて、JR大阪環状線の主要6駅構内に配架された。またTwitterとInstagramのアカウントも作成し、事前事後の告知や関連情報の発信なども実施した。



□ 活動の成果

- 1 完成した冊子が好評で配架後早々に在庫が無くなり、急遽増刷をおこなうほどであった
- 2 ユニークなテーマ性に注目が集まり、多くの媒体からの取材を受けて報道された(全国紙の地方面2紙、地方紙1紙、業界紙3紙)

□ 今後の課題・目標

- 1 配架部数について、予算上の制約からニーズに十分対応することができなかった
- 2 SNSを通じたより効果的な情報発信(具体的には継続性と、インフルエンサーへの協力依頼など)
- 3 ワークフローやスケジュールの管理と、校閲の徹底

教員紹介



■ 総合情報学部 教授

岡田朋之
Tomoyuki Okada

専門はメディア論。情報メディアの革新が人々の日常生活とどう関わっていくかについて、主にスマートフォンやSNSなどを通じたモバイルコミュニケーションの変化の側面から研究している。ゼミでは「メディアをつくる、社会を考える」をテーマに置き、メディアやイベント等の制作を踏まえて社会の問題を考察することを課している。